

単元名

新しいこと いっぱい

教科書 下巻 p.2～11

単元の配当時間 4時間／活動時期 4月

単元の目標

2年生になって嬉しいことやわくわくすることを見つけたり、1年生に喜んでもらえることを計画したりする活動を通して、新しくやってみたいことや楽しみにしていることがたくさんあることに気付いたり、自分の成長や役割が増えたことが分かるとともに、進級した喜びやこれからの自分の成長に願いをもって意欲的に生活することができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて変更して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
新しいわくわくをみんなで話そう（1時間） 2年生になって、嬉しいことやわくわくすること、新しくやってみたいことや楽しみにしていることを見つけ、これからの生活に関心を高めることができるようにする。	知・技	始業式からこれまでのことを振り返ることを通して、2年生になって変わったことや2年生になって始まることなどに気付いている。	自分の経験だけでなく、自分が知っていることや上級生から聞いたことなども繋げ、期待感とともに新しくなったことに気付いている。	●1年生の時の行事や授業、教室などの写真を見せたり、現在と比較させたりする。
	思・判・表	1年生の時の自分と2年生になった自分の違いを比較しながら考えている。	「教科書が新しくなったよ。」「教室の場所が変わったね。」「新しい1年生が入学してくるよ。」など、物や設備、人など多様な観点から新しくなったことを考えようとしている。	●実際に校内を回ったり、身の回りの持ち物や風景を見たりするように声をかけ、具体例から考えさせる。
	主体	2年生になった喜びをもって校内の様子を見て回ったり、気付いたことを友達と話したりしようとしている。	1年生の時に関わった人たちへの感謝の気持ちや、2年生への期待感を具体的に友達と話したりしようとしている。	●現3年生から、手紙や2年生の時の写真などをもらい、新2年生としての学校生活への期待感を高めさせる。
1年生をむかえよう（1時間） 1年生に学校を好きになってもらえるように、自分たちにできることを考えたり、一緒に遊んだり、学校のことを紹介したりして、上級生として自分の役割が増えたことに気付くことができるようにする。	知・技	上級生として自分の役割が増えたことに気付いている。	自分自身の成長だけでなく、友達の成長や1年生との違いにも気付いている。	●実際に案内する中で楽しかったことや困ったことをメモするように助言したり、1年生の感想を紹介して参考にさせたりする。
	思・判・表	1年生に学校を好きになってもらえるように、自分たちにできることを考えたり、計画したり、準備したりしている。	自分が入学したばかりの頃を思い出し、1年生の立場になって声をかけたり、世話の仕方、案内の仕方の工夫を考えたりして計画・準備を進めている。	●自分が1年生を案内したい場所や、その時にあったほうがよいもの、知っておいたほうがよいことは何かを考えるように声をかける。 ●1年生の時に楽しかったことや、学校のおすすめの場所や遊びなどは何か、具体的に考えさせる。
	主体	自分から積極的に声をかけたり、1年生の世話をしたり、学校を案内したりしようとしている。	1年生の困っている様子に寄り添ったり、授業後も関わり合おうとしたりしようとしている。	●自分が1年生の時の上級生への憧れや、上級生にしてもらって嬉しかったことなどを思い出すように声をかける。

単元の評価規準

●知識・技能

2年生になって新しくやってみたいことや楽しみにしていることがたくさんあることに気付いたり、1年生と過ごす活動を通して1年生に優しく接することができた自分の成長や2年生として役割が増えたことに気付いたりしている。

●思考・判断・表現

1年生に学校を好きになってもらえるように自分たちにできることを考えたり、1年生の立場に立って声をかけたりして、関わり方を工夫している。

●主体的に学習に取り組む態度

2年生として新しく始まる学校生活に関心をもち、進級した喜びやこれからの自分の成長に願いをもって意欲的に生活しようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
春の校ていで みんなであそぼう（2時間） 1年生と関わることで、自分たちの成長や進級した喜びを感じ、これからの生活を意欲的に送ろうとすることができるようにする。	知・技	1年生に優しく接することができた自分の良さや友達の良さ、自分たちの成長に気付いている。	自分の成長が、1年生の時の学校生活や家庭生活を通じて育まれてきたものであることにも気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> ●交流活動中に、1年生に優しく接している子どもを称賛し、自分の良さや友達の良さを自覚できるようにする。 ●交流活動後は、1年生の感想も参考にして、1年間でいろいろできるようになった自分の成長に気付かせる。
	思・判・表	1年生と関わる中で、相手が喜んでくれることや助けになることなどを具体的に考えている。	1年生との関わりを通して、自分たちの学校生活がたくさんの物や人に囲まれていることを考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が1年生の時の上級生にしてもらって嬉しかったことや、関わって楽しかったことを思い出すように声をかける。
	主体	上級生としての自覚をもって、1年生の世話をしたり、一緒に遊んだり、学校を案内したりしようとしている。	授業後も上級生としての自覚をもって、「困ったことがあったら教えてね。」と声をかけたり、1年生のお手本になろうとしたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ●関わりの中で1年生を笑顔にできていることを称賛し、2年生になったことでよりたくさんの人を喜ばせたり、できるようになったことが増えたりしていることを自覚させる。

単元名

大きく そだて わたしの 野さい

教科書 下巻 p.12～25

単元の配当時間 12 時間／活動時期 4～10 月

単元の目標

野菜を育てる活動を通して、野菜が育つ場所や変化の様子に関心を持ち、世話の仕方を調べたり、人に聞いたりしながら愛着をもって世話をし、それらに生命があることや成長していることに気付くとともに、親しみをもって大切にすることができるようになる。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
そだてたい野さいをえらぼう（1時間） 自分が育てたい野菜について話し合い、栽培への意欲を高めることができるようにする。	知・技	自分たちの身の回りには、いろいろな種類の野菜があることに気付いている。	「家の近くで野菜を育てている畑があるよ。」「幼稚園ではピーマンを育てたから今度はナスを育てたい。」など、野菜について知っていることや自分の栽培経験について話している。	●幼稚園や保育所で育てたことのある野菜と比較させる。
	思・判・表	自分で野菜を育てる様子を思い描きながら、理由をもとに自分の育てたい野菜を決めている。	「ピーマンがあまり好きじゃないけれど、自分で育てたらおいしいのができて、好きになれるかもしれないからピーマンを育てることにしたよ。」など、栽培しようとする理由を表現することができる。	●友達や家の人と何を育てたらいいか話をしてみるように言葉をかける。 ●教科書下巻p.14～15の写真を参考にし、育てる野菜を決めるようにする。
	主体	野菜の成長を楽しみにしながら、栽培の見通しをもとうとしている。	「1年生の時に、アサガオがたくさん咲いたので、野菜もたくさんできるといいな。」など、これまでの体験から意欲をもって取り組もうとしている。	●教科書や図鑑などを使って1年生の時の栽培経験を思い出すようにする。
野さいをそだてよう（2時間） 自分が育てる野菜について、人に聞いたり、本やインターネットで調べたりしながら、栽培の準備をすることができるようになる。	知・技	野菜によって、種のみき方や苗の植え方、時期、栽培方法が違うことに気付いている。	「ふかふかのベッドのような土があるよ。」「ミニトマトは夏になったら食べられるよ。」など、野菜によって異なる栽培方法について気付いている。	●アサガオの栽培経験を思い出させる。
	思・判・表	人に聞いたり、本やインターネットで調べたりしながら、栽培の準備を考えたり、行動したりしている。	「私のおじいちゃんは野菜のことよく知っているよ。」「準備が分からないから図鑑で調べよう。」など、自分が育てる野菜の準備について調べる方法を考えている。	●図鑑や野菜の本をもとに自分の育てる野菜について調べるようにする。
	主体	自分が育てる野菜について関心や期待をもちながら、調べたり、栽培の準備をしようとしていたりしている。	その野菜を選んだ思いや、これからの栽培活動への期待などを、絵や言葉で表現している。	●これまでの栽培経験や野菜を育ててどうしたいかなどの思いを聞き、思いをふくらませる。

単元の評価規準

●知識・技能

栽培活動を行う中で、野菜が変化し成長していることや、それらが生命をもっていること、その大切さに気付くとともに、自分が1年生の時よりも上手に植物の世話をできるようになったことに気付いている。

●思考・判断・表現

栽培活動を行う中で、それらが育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけるとともに、植物に心を寄せ、より良い成長を願って世話の仕方を考えたり工夫したり振り返ったりし、それを素直に表現している。

●主体的に学習に取り組む態度

自分が育てる野菜に心を寄せ、愛着をもって接するとともに、生命あるものとして継続的に世話をしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
たねや なえを うえよう（1時間） 自分が育てる野菜の種や苗をおいしい野菜が育つように願いながら、植えることができるようにする。	知・技	それぞれの野菜に合った種のまき方、苗の植え方があることに気付いている。	「ダイズは種から育てるんだ。」「ピーマンは苗から育てよう。」など、種のまき方、苗の植え方を理解している。	●図鑑や野菜についての本をもとに世話の方法について考えるようにする。
	思・判・表	自分が育てる野菜に合った種のまき方、苗の植え方を意識しながら、種をまいたり、苗を植えたりしている。	本やインターネットで調べたり、人に聞いたりして積極的に野菜の世話について調べたり、「苗をそっと持とう。」「土をかけて軽くおさえるんだ。」「忘れずに水をやろう。」など、野菜をていねいにかつ大事に扱ったりしている。	●自分の育てる野菜を教師と一緒に種をまいたり、苗を植えたりするようにする。
	主 体	野菜を育てることに関心を持ち、収穫への期待や夢をもちながら、種をまいたり、苗を植えたりしようとしている。	「おいしいダイズができるようにしっかり世話をしよう。」「ミニトマトができたらみんなで食べたいな。」など、収穫への期待や思いをもって取り組んでいる。	●自分で育てた野菜がどんな風に食べることができるのか話し合う。
せわを しよう（3時間） 野菜の観察や世話を通して、野菜の変化に気付くとともに、成長に合わせた世話をすることができるようにする。	知・技	育てている野菜の成長に合った世話の仕方があることに気付いている。	「大きくなってきたら、アサガオを育てた時と同じように、支柱を立てないといけないね。」「トマトはわき芽を摘むとよく育つんだね。」など、栽培経験や友達の栽培している植物と比較することから、植物に合った世話の仕方に気付くことができる。	●友達の野菜と比べて違いを見つけるように声をかける。
	思・判・表	野菜の育つ場所、変化や成長の様子を予想したり調べたり、比べたりしながら関わっている。	「日当たりのいいところに置いて、水も毎日忘れずにあげるとよく育つよ。」「肥料をうまくあげるとずいぶん大きくなったよ。」など、実感をともなった表現をすることができる。	●一緒に世話をすることで、工夫できることを考えるようにする。 ●自由に発想し表現してよいことを伝える。
	主 体	栽培方法を本で調べたり、人に聞いたりして、育てている野菜の状態や成長に合わせた世話をしようとしている。	「図書室の本に、育てる方法が詳しく出ているよ。本を見ながら世話をしたらいいかなあ。」「野菜を育てている人に聞いたらいいかもしれない。」など、意欲的に活動することができる。	●教師や友達と一緒に世話をする場を設定する。 ●これまでの栽培経験を思い出し、何ができるか思い出すように言葉をかける。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
みのった野さいをしゅうかくしよう（2時間） 野菜が花を咲かせたり、実をつけたりする成長の様子を観察し、収穫する活動を通して、自分で野菜を育てた達成感と収穫の喜びを味わうことができるようにする。	知・技	野菜への親しみが増し、上手に世話ができるようになった自分自身の成長に気付いている。	「1年生の時に比べて、水やりや肥料をやるのがうまくなってきたよ。わき芽を摘む世話もできるようになったよ。」など、達成感とできるようになった実感を得ることができる。	●1年生の時や、2年生で栽培を始めたころに比べて、世話が上手になったことを認める。
	思・判・表	他の野菜と比較して捉えた特徴や、収穫した時の喜びを、自分なりに表現している。	初めて実ができた時の様子を、絵や文章で豊かに表現することができる。	●絵でも文章でもかきやすい方法で表現してよいことを伝える。
	主体	咲いた花やできた実に喜びを感じながら、継続的に世話をしたり、収穫したりしようとしている。	「一生懸命世話をしてきたので、ずいぶんたくさんとれたよ。うちの人と一緒に食べたらきっとおいしいだろうなあ。」など、これまでの栽培を振り返り、収穫の喜びを友達や家の人と共有することができる。	●初めてできた花や実と一緒に見ながらその時の気持ちを聞く。
わたしの野さいをしょうかいしよう（3時間） 自分が育てた野菜の成長の様子やこれまでの世話を振り返ることを通して、植物が生命をもっていることや、適切に世話をすることができた自分の成長に気付くことができるようにする。	知・技	自分が育ててきた野菜の様子や収穫まで頑張ったことに対するやりがいに気付いている。	「ミニトマトは、苗は小さかったけど大きな赤い実がたくさんできました。」「毎日、世話をがんばったから大きくなったよ。」など、育てた野菜の成長の様子やがんばった自分の姿に気付いている。	●かきためた観察カードを並べたり、継続的に撮りためた写真を見たりして、変化の様子を実感できるようにする。
	思・判・表	栽培活動したことをもとに、見つけたり、比べたり、例えたりして、わかりやすい伝え方の工夫をしている。	「こんなふうにカードをつなげると、大きくなっていく様子がよく分かるよ。」など、観察カードのまとめ方や表現の仕方に自分なりの工夫が見られる。	●絵や文章など、得意な表現方法で栽培活動を振り返るようにする。 ●まとめ方を工夫したものを実際に提示し、参考にさせる。
	主体	収穫の喜びや自分で野菜を育てることができた達成感を味わい、これからも植物と関わろうとしている。	「最初はこんなに小さかったのに、どんどん大きくなっておいしい野菜ができました。みんなで食べたら、もっとおいしかったよ。次は、ちがう野菜も育ててみたい。」など、栽培経験を振り返った上で、収穫の喜びや次への展望を伝えている。	●観察カードや写真などをもとに種をまいたり、苗を植えたり、収穫した時の気持ちを思い出させる。

単元名

とび出せ！町のたんけんたい

教科書 下巻 p.26～41

単元の配当時間 10時間／活動時期 5～7月

単元の目標

自分たちが住む町を探検する活動を通して、町の自然、人々、社会、公共物などに関心をもつとともに、自分たちの生活は、町で生活したり働いたりしている人々や様々な場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
町のことをみんなで話そう（1時間） 自分の知っている町のことを紹介しながら、これから行う町探検への意欲をもつことができるようにする。	知・技	自分が住んでいる町について、自分が知っていることは、その中の一部分だけであることに気付いている。	「〇〇さんの話していた公園は知らなかったのですが、どんな公園なのか行ってみたいと思いました。」など、友達の発表を聞いて、自分の知らないことに気づき、町探検への意欲に繋げている。	●友達の発表を聞いて、自分の住んでいる町には知らないことがたくさんあるということに気付かせる。
	思・判・表	自分が住んでいる町にはどんな所があるのか思い起こしながら、考えている。	「ビニルハウスを見たけど、何を育てているのだろう。」「カマキリがいるあの公園が好き。」など、自分なりの疑問や根拠をもってみんなの前で発表している。	●教科書下巻p.28～29の鳥瞰図を見ながら、「これは何だろう。」と質問を行う。
	主体	町への関心や期待をもちながら、自分が知っている町のことを話したり、友達の話を聞いたりしている。	「私が学校に来る時に見つけたのは、不思議な看板です。あれが何のお店なのか調べてみたいです。」など、自分の生活体験にもとづいて話している。	●「学校に来る途中でどんなものがあるだろう。」「知っているお店はあるかな？」などの声かけをする。
町たんけんの計画を立てよう（2時間） グループごとに町探検の計画を立て、必要な物を準備することができるようにする。	知・技	探検に必要な物や約束（ルールやマナー、言葉遣い、安全面）の大切さに気付いている。	「お店の人に質問する時には、『～ですか』という言い方がいいね。」というように、相手に対する意識をもっている。また、交通ルールに気を付けて、町探検をしようとしている。	●町にはいろいろな人がいることに気付かせ、その中でどう行動したらよいかということを具体的な場面で確認する。（例：電車などの乗り物に乗る場合など）
	思・判・表	行ってみたい場所や会ってみたい人を思い描きながら、知りたいことに合わせて探検の計画を立てている。	「探検する順番を考えておくといいね。」「探検ボードがあるとメモをする時に便利だね。」というように、探検に必要な物や約束を進んで考え、グループの中で発表したり、カードにかいたりしている。	●教科書下巻p.30～31を見ながら、探検になくは困る物はないか考えさせる。また、道やお店で注意すべきことを確認する。
	主体	グループの友達の意見と自分の意見を調整しながら、安全に楽しく町探検が行えるように進んで準備をしようとしている。	友達の意見を尊重しながら「町で会った人に挨拶をしよう。」「交通安全に気を付けながら町探検をしよう。」というように、探検に対する意欲とともにルールやマナーを意識している。	●準備物や約束がなければどんな時に困るか、声をかけた後、以前にあったトラブルの例を話したりして考えさせるようにする。

単元の評価規準

●知識・技能

町の自然や人々、社会、公共施設などの様子や、自分たちの生活との関わりに関心をもつとともに、自分の町の良さに気付いている。

●思考・判断・表現

町の人々や様々な場所と適切に関わることや、安全に生活することについて考えたり、町探検で見つけたことや気付いたことについて、自分なりの方法で表現したりしている。

●主体的に学習に取り組む態度

自分の生活している町に関心をもち、町の人々や様々な場所に親しみをもって関わったり、友達と協力して春の町を探検したりしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
町たんけんに出かけよう（2時間） グループの探検計画にそって町に出かけ、人々と接したり、すてきなものを発見したりしながら、友達と協力して安全に町探検をすることができるようにする。	知・技	町には生活したり働いたりしている人々や様々な場所があることに気づいている。	「パン屋さんが、こんにちはと声をかけてくれました。嬉しかったです。」「商店街には、たくさんお店がありました。中でも和菓子屋さんには、たくさんの方が買いに来ていました。」など、探検で見つけた建物のことだけでなく、お店の様子や町の人の様子について気付いている。	●写真などの補助資料を用いたり、グループの他の子どもの発言から自然や生活の様子を理解できるようにする。
	思・判・表	見つけた場所や物、町で出会った人との関わりについて、気付いたことをカードにかき表している。	「和菓子屋さんの〇〇さんが夏のお菓子について教えてくれました。」「いつも学校に来る途中で見ている田んぼをよく見たら、おたまじゃくしがいました。」というように、お店で出会った人との関わりや生活の中で気付かなかったことについてかいている。	●文章で書くのが難しい子どもには、絵で描いてもよいことを伝える。また、写真を撮るなど、後からでも思い出せるようにする。
	主体	自分の町に関心を持ち、安全に気を付け、友達と協力して探検したり調べたりしようとしている。	意欲的に町探検に参加し、交通安全に気を付けた道路の歩き方や会った人への挨拶をしっかりと行っている。また、グループの友達と協力しながら、町探検を行っている。	●町探検のルールを再度確認し、友達と協力しながら探検することの大切さを伝える。ルールやマナーを守っている子どもを褒め、自分の行動に気付かせるようにする。
町の人と話してみよう（2時間） 相手へのマナーを考えて接し、自分の思いや願いをもってインタビューをすることができるようにする。	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 町の人や場所が自分の生活と関わっていることが分かっている。 相手や場に応じた挨拶や言葉遣いをしている。 	目を見て挨拶する、丁寧に話す、お礼を言うなどのマナーを守りながらインタビューをしている。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの気づきを日常生活と関連付けられるように整理する。 インタビューの時間を作ってもらっているという感謝の気持ちや他のお客さんへの配慮を確認する。
	思・判・表	見つけた場所や物、出会った人との関わりについて、自分の生活と関連付けながら、捉えている。	「お店で売っているお菓子は、手作りしているとお店の人に教えてもらいました。食べる人のことを考えて、丁寧に作っているから、おいしいと分かりました。」というように、インタビューで教えてもらったことをもとにして、町の良さに気付いている。	●インタビューで聞いた内容を整理し、初めて知ったことや聞いて良かったことを確認する。
	主体	町の人と関わりたいという思いや願いを持ち、相手の状況を考えながら、インタビューしようとしている。	「今、お話を聞かせてもらってもいいですか。」など、相手を意識したインタビューをしている。また、インタビューするうちに新たに生まれた疑問についても進んで尋ね、町の人と積極的に関わろうとしている。	●質問する内容を事前に考えてからインタビューを行うようにさせる。また、話すのが苦手な子どもには、インタビューの仕方を練習してから行くようにさせる。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
はっ見した ことをつたえよう（3時間） 町探検を通して見つけたことや楽しかったこと、関わった人などを友達と紹介し合い、自分の町にいつそう関心をもつことができるようにする。	知・技	町で生活したり働いたりしている人々や様々な場所が自分たちの生活を楽しくしていることに気付いている。	自分の町に対する愛着が生まれてきていることや、友達の話聞いて新たな町の良さに気付いている。	●「前より、知っていることが増えたね。」、「この町のすてきなところはどこかな。」などの声かけをする。
	思・判・表	探検で見つけたことや楽しかったこと、関わった人などの中から、友達に伝えたいことを選んで、それを表現している。	町探検で見つけたことや楽しかったこと、関わった人などの中から、友達に伝えたいことを考えて、写真やペーパーサート、クイズなどの多様な方法を用いて分かりやすく表現している。	●探検の様子の写真を見せたり、これまでのカードの中からお気に入りのものを見つけさせたりして、子どもが一番伝えたいことを見つけられるようにする。
	主体	町探検で見つけたことや楽しかったことを友達に紹介しようとしている。	これまでにかいたカードをもとに、町探検で見つけたことや楽しかったことを進んで紹介し、友達の紹介も楽しんで聞こうとしている。	●発表が苦手な子どもには、教師が例を見せたり、友達の発表の様子を見せたりする。
みんなでつかう 場しょに行ってみよう（配当外） みんなが使う公共物や公共施設の存在や、それを支える様々な人の存在に気付くとともに、ルールやマナーを守り、安全かつ大切に利用することができるようにする。	知・技	みんなが使う場所（公共施設）の利用の仕方を知り、その良さに気付いている。	みんなが使う場所（公共施設）の利用の仕方をきちんと理解し、約束を守って利用している。また、それぞれの特徴を理解し、自分の用途に合わせた利用の仕方をしている。	●事前に写真などの補助教材を使って、利用の仕方や注意点を学習してから行くようにする。
	思・判・表	みんなが使う場所（公共施設）を利用して、気付いたことを自分なりに表現したりまとめたりしている。	「図書館では静かにする。」、「公民館では、他に利用する人のことを考えながら使う。」など、それぞれの施設に応じた利用の仕方を考え、それを自分の言葉でまとめたり、発表したりしている。	●みんなが使う場所（公共施設）の利用の仕方をもう一度確認し、利用をした時に自分が気付いたことを振り返らせる。
	主体	みんなが使う場所（公共施設）に親しみを持ち、進んで活用しようとしている。	「休みの日に図書館に行って絵本の読み聞かせを聞いてきました。」、「家族と一緒に博物館に行きました。面白い展示を見てきました。」など、日常生活の中で利用し、生活を豊かにしようとしている。	●一度行って終わりではなく、何度も繰り返し訪れることで愛着をもてるようにする。

単元名

みんな 生きている

教科書 下巻 p.42～59

単元の配当時間 10 時間／活動時期 6～7 月

単元の目標

生き物を飼ったり育てたりしながら、生き物が育つ場所や変化の様子に関心と親しみを持ち、生き物も自分たちと同じように生命をもっていることに気づき、大切に関わろうとすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
どんな生きものが見つかるかな？（1時間） 様々な生き物との自分の経験を話し合い、生き物に対する関心を高めることができるようにする。	知・技	学校の近くや家の近くにも多くの生き物がすんでいることに気付いている。	学校の近くや、自分の住んでいる地域には、多くの生き物がすんでいることに気づき、「あの公園には、たくさん虫がいるよ。」など、生き物を見つけやすい場所や捕まえやすい場所があることに気付いている。	●登下校時のコースや休み時間の運動場などの様子を想起させ、たくさん生き物の存在に気付けるようにする。
	思・判・表	これまでの自分の経験をもとに、生き物の姿や様子、見つけた場所など、知っていることについて話している。	これまでの自分の経験をもとに、「〇〇を育てたよ。〇〇などところがかわかったよ。」など、友達に伝えるように生き物について話している。	●動植物と触れ合う具体的な場面を提示し、生きている物が自分の身の回りにはたくさんあることに気付かせ、自分の生活の中の関わりについて思い出させるようにする。
	主体	身の回りの生き物に関心を持ち、飼いたいという願いをもって、生き物に関わろうとしている。	身の回りの生き物に関心を持ち、積極的に自分と生き物についての経験を話し、飼いたいという願いをもって、生き物に関わろうとしている。	●実際の動物や植物と触れ合う機会を設け、そのかわいさや変化を感じさせることで関わろうという心情をもたせる。
生きものをさがそう（2時間） 友達と協力して生き物探しの準備をし、安全に気を付けながら生き物を探したり、採集したりするとともに、生き物がすんでいる場所の特徴に気付くことができるようにする。	知・技	生き物がすんでいる場所の特徴に気付いている。	「バッタは草を食べるから、草がたくさん生えている所にいるんだな。」など、生き物がすんでいる場所の特徴を生き物の特徴と合わせながら捉えている。	●同じ生き物を見つけた友達の話を聞かせ、自分が見つけた場所と同じであることに気付かせたり、違う生き物を捕まえた友達の話を聞かせたりして、生き物によってすむ場所が違うことに気付けるようにする。
	思・判・表	友達と協力しながら、生き物探しの準備をし、生き物がすんでいるような場所を予想しながら、生き物を探している。	<ul style="list-style-type: none"> 「サワガニは、水の流れている所にいるから靴がぬれそうだな。長靴を持っていこう。」など、虫かごや網だけでなく生き物の生息場所に合った身支度や安全面も考えて計画を立てている。 保護者や地域の人から情報をもらい、探したい生き物を手際よく見つけたり工夫して捕まえたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●同じ生き物を探しに行く友達と一緒に計画を立てるようにし、何が必要なか意識できるようにする。 ●生き物を見かけた場所や特徴を想起させたり、図鑑などで調べさせたりし、生き物がすんでいるような場所を予想させてから探すようにする。
	主体	生き物に興味・関心を持ち、生き物探しの計画を立てたり進んで関わろうとしたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> 虫かごや網、餌など探検に必要な物を何日も前から準備し、探検の日を心待ちにしている。 生き物を傷つけないように捕まえたり、なかなか捕まえない友達にアドバイスや手助けをしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●活動のきっかけとなるよう、教師が生き物を教室に持ち込み、生き物への興味・関心を高めておく。 ●同じ生き物を探しに行く友達と一緒に計画を立て、関心を引き出す。 ●教師や友達と一緒に生き物探しをする。

単元の評価規準

●知識・技能

生き物も人間と同じように生命をもっていることや成長していること、また、飼育する中で上手に世話ができるようになった自分自身の成長にも気付いている。

●思考・判断・表現

生き物の世話の仕方や接し方について自分なりに考えたこと、工夫したこと、それらを振り返り思ったこと、気付いたことなどを素直に表現している。

●主体的に学習に取り組む態度

生き物の変化や成長の様子、育つ場所などに関心を持ち、飼育する生き物にとってより良い環境になるように、調べたり、人に聞いたりして工夫し、生き物に親しみ大切にしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
大切に そだてよう（2時間） 生き物がすんでいた場所の特徴を考えたり、本で調べたり、人に聞いたりして、生き物のすみかや餌、育て方を工夫することができ、生き物を大切にすることができるようにする。	知・技	生き物には、その種類に合ったすみかや餌、育て方があることに気付いている。	生き物の成長に合わせてすみかや餌、育て方が変わっていくことに気付いている。	●前回、観察した時と違っているところを見つけながら観察させるようにする。
	思・判・表	生き物がすんでいた場所の特徴を考えたり、本で調べたり、人に聞いたりして、生き物のすみかや餌、育て方を考えている。	生き物を捕まえた時の様子を想起しながら、すみか作りに必要な物を自分で考えて準備し、生き物に合ったすみかを工夫して作っている。	●捕まえた時の写真を見せたり、図鑑やインターネットを使って調べるように促したりする。 ●友達の飼育かごを観察させ、自分の生き物に合うすみかを見つけさせたり、同じ生き物の世話をしている友達のすみかをまねて作らせ、すみかの特徴を捉えることができるようにする。
	主体	生き物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって継続的に世話をし、繰り返し関わろうとしている。	毎日休み時間には、生き物を観察し、餌やりや水の噴霧など必要な世話を進めたり、休日には持ち帰り、家でも世話を続けたりしている。	●生き物に名前をつけ、親しみをもたせる。 ●毎朝自分の健康観察とあわせて生き物の健康観察も行い、生き物の様子への関心を高める。
生きものをよく見よう（2時間） 継続して生き物を飼育し、観察する中で、その生き物の変化や成長の様子を知り、生き物が自分たちと同じように生命をもち、成長していることに気付くことができるようにする。	知・技	生き物の体や動きの特徴が分かるとともに、生き物は変化し成長していることや命があることに気付いている。	「ぼくたちと同じように、生き物だってごはんを食べないと死んでしまうよ。だから毎日新しい餌をあげるんだ。」など、自分と生き物を対比させたり、同化させたりしながら命を自覚し、大切にしようとしている。	●生き物を飼い始めた時の写真や観察カードと、1～2週間後の写真や観察カードを比較し、変化や成長の様子に気付けるようにする。
	思・判・表	生き物の変化に合わせて育て方を工夫したり、変化や成長の様子を調べたり、変化の様子を予想したりしながら、関わっている。	世話を通して気付いたことや発見したことを日常的に教師や友達に伝えている。	●教師と一緒に観察をし、観察の視点を与えながら表現を促す。
	主体	生き物の不思議さや面白さを見つけようとしたり、自信を持って関わられるようになったりしたことを実感し、生命あるものとして関わろうとしている。	親しみをもって生き物の成長の様子を見取り、積極的に観察・飼育しようとしている。	●観察・飼育する時間を決めて、生き物と関わる時間を意図的に設定することでその時間を確保できるようにする。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
はっ見したことを知らせよう（3時間） 継続して生き物を育て、分かったことや気付いたことを自分なりに表現する中で、生き物を大切に育てることができた自分自身の成長に気付くことができるようにする。	知・技	生き物への親しみが増し、毎日生き物の世話ができた自分の頑張りに気付いている。	自分の頑張りに自信をもつとともに、友達の頑張りにも気付き、素直に表現している。	<ul style="list-style-type: none"> ●世話を頑張っていたことを、メッセージカードなどで友達から評価してもらう。 ●単元を通して、進んで世話をしていたときには賞賛をし、自信をつけさせる。
	思・判・表	継続して生き物を育てて、分かったことや気付いたことを伝える相手のことを思い浮かべながら、伝え方を工夫して表現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「私のトカゲは、脱皮をするのに1週間もかかりました。途中で死んでしまうのではないかと心配しましたが、脱皮した後はとても元気になり、安心しました。」など、具体的な数値を使ったり、その時の心情とあわせて分かったことや気付いたことを自分に合った方法で工夫しながら伝えようとしている。 ・生き物を大切に思い、これからどうするか相談したり、自分で決めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観察カードを手がかりに分かったことや気付いたことを教師と話しながら探していく。 ●観察する時に発見を記録する習慣をつけておく。
	主体	分かったことや気付いたことを、分かりやすく伝えようとしている。また、友達の頑張りにや発見に興味・関心をもって進んで聞こうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことがたくさんあり、伝える相手のことを考えながら表現方法を選んでいる。 ・休み時間など、様々な機会を利用していろいろな人に伝えたいという意欲をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝えるための方法をいくつか提示し、自分にできる方法を見つけさせ、表現への不安を解消する。 ●生き物の世話を通して、驚きの場面や発見の場面を意図的に取り上げ、自覚させることで、誰かに伝えたいという気持ちを高めておく。

単元名

せかいでひとつわたしのおもちゃ

教科書 下巻 p.58～71

単元の配当時間 12時間／活動時期 9～10月

単元の目標

身近にある物を使って動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、試行錯誤を繰り返しながらおもちゃや遊び自体を工夫し、おもちゃの動きや面白さや不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しんだり創り出したりできるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて変更して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
うごくおもちゃを考えよう（1時間） 身近にある物を使って遊び、素材の特徴や動きの面白さに気付くとともに、動くおもちゃを作りたいという思いや願いをもち、これからの見通しを立てることができるようにする。	知・技	身近にある物を使って遊ぶ中で、素材の特徴や動きの面白さに気付いている。	1つの素材の特徴や面白さに気付くだけでなく、様々な素材で十分に遊び、それらの特徴や面白さに気づき、「ひもをつけて引っ張ってみると面白いよ。」「うちわであおぐと進むよ。」など、その特徴を発言したり、友達などに伝えたりしている。	●教師と一緒に遊んで素材の特徴を提示したり、素材の特徴や面白さに気付いている友達の様子を見せたり、その友達たちの発表の機会を設けたりして具体的な物や作っている様子などを見せる。
	思・判・表	身近にある物を使って遊ぶ中で、自分の作りたい動くおもちゃを考えている。	「この素材は転がるから、もっと速く転がるようにして競争したいな。」や「これとこれを組み合わせて使えば動くぞ。」など、素材の特徴や動きの面白さに気付いて、これから作っていくおもちゃの素材やそれに必要な物やそれを使って友達と遊ぶことなどの見通しをもっている。	●作りたいおもちゃはあるが素材の特徴に気付かず、素材を動かそうという意識がない場合は、「どんなおもちゃを作りたいかな。」と教師が声をかけたり、友達の様子を見せたり、発表の機会を設けたりして具体的に素材の特徴を知らせ、おもちゃ作りの参考にさせる。
	主体	身近にある素材を選び、「動くおもちゃを作りたい」、「作って友達と遊びたい」など思いや願いをもって作ろうとしている。	「このおもちゃを作るにはこれが必要だ。」「こんなおもちゃを作りたい。」とおもちゃのイメージをもち、素材を選択し、「速く動くようにして競争したいな。」や「友達と遊びたいな。」と具体的な思いや願いをもって作ろうとしている。また、その思いや願いを友達に伝えて活動をしようとしている。	●動くおもちゃを作りたいという思いや願いはあるが、素材をどのようにしてよいか分からない場合は、その思いや願いを聞き、それに合った友達を紹介したり、教師の作ったおもちゃを見せたりして、具体的な物や作っている様子などを参考にさせる。

単元の評価規準

●知識・技能

動くおもちゃについて、動きの面白さや不思議さ、遊びに使う物を作る面白さ、みんなで遊ぶ面白さに気付いている。

●思考・判断・表現

身近にある物を利用したおもちゃや遊び自体を、試行錯誤を繰り返しながら工夫して作っている。

●主体的に学習に取り組む態度

おもちゃランドに向けて、友達との繋がりを大切にし、より良い遊びや遊び方を創り出そうとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<p>自分でおもちゃを作ってみよう（3時間） 自分でおもちゃを作ったり、友達と一緒に工夫したりしながら、おもちゃの動きの面白さや不思議さに気付くことができるようにする。</p>	知・技	動くおもちゃを作ることについて、友達の工夫、おもちゃの動きの面白さや不思議さに気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> 友達の工夫を「〇〇くんは、～～のところすごいね。」と具体的に相手に伝えたり、教えてもらったり、まねて作ったりしている。 「どうして〇〇はこんなに速く動くのだろう。」など、面白さや不思議さに気付き、何度も繰り返し遊んだり、試したり、友達にそれを伝えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「友達が作ったものを見てみよう。」と声をかけたり、不思議さや面白さに気付いている子どもの説明や考えを聞かせたり、不思議さや面白さに気付いてより良いおもちゃ作りの工夫に悩んでいる子どもの話を聞いたりして、参考にさせる。
	思・判・表	比べたり、試したり、見立てたりしながら工夫して作っている。	友達のおもちゃと比べて、「〇〇さんのここはすごいな。」「ここはぼくの方がいいかな。」など、自分のおもちゃの良いところは残したり、より良くしようと友達の工夫を更に自分なりに試したりして、情報を選択して考え、作ろうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 自分のおもちゃだけを見ておもちゃ作りを完結させている子どもには、「〇〇さんのこういうところはどう思う？」などと声をかけて、友達と自分を比べる視点を与えたり、「友達のおもちゃのすごいところを見つけよう。」など、友達のおもちゃが目に入る時間を設け、教師がどんなところを比べてみるとよいか声をかける。
	主体	友達の良さを取り入れたり、自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとしている。	「もっと速くしたい。」「もっと～したい。」と試行錯誤をしたり、友達に「良いな」と思った工夫をたずねたりしている。また、それを「本で調べたい」や「より詳しい人に聞きたい」などという思いをもったり、実際に行動に移したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> 作ったおもちゃに満足し、より良くしようという思いがもちにくい子どもに対しては、試行錯誤している友達やその途中で悩んでいる友達と一緒に作ったり、遊んだりして、友達のおもちゃの良さを感じ、参考にさせる。
<p>あそび方やルールをくふうしよう（4時間） 友達と遊びながら試したり、比べたりすることで、おもちゃを改良したり、より楽しく遊ぶための遊び方やルールを考えたりすることができるようにする。</p>	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの楽しさや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。 遊び方やルールが大切なことやそれを守って遊ぶことの楽しさに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「〇〇さんのおもちゃはここが大きいから速く進むのかな。」や「〇〇くんのおもちゃはジャンプして動くんた。すごいな。」など、友達のおもちゃの様々な違いに気付いたり、おもちゃの良いところに気付いたりしている。 遊び方やルールを提案したり、友達とそれらを話し合っ作っていったりすることがより楽しく遊ぶことに繋がることが分かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人で遊んでいる子どもや遊び方に違いがある子どもには、教師が遊びの場の設定をして、一緒に遊ぶことの楽しさとそれに必要な遊び方やルール作りがあることを伝えて参考にさせたり、すでに遊び方やルールを決めて遊んでいる友達の姿を見せて「どんなところが楽しそうかな。」と声をかけて気付かせたりする。
	思・判・表	おもちゃを改良したり、遊び方やルールなどを考えたりして、より良い遊びを工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> 「〇〇さんのおもちゃのここはどうなってるの、見せて。」や「〇〇くんのおもちゃはジャンプして動くんた。すごいな。」など、友達のおもちゃを見て、更に自分のおもちゃを改良したり、自分のおもちゃの良いところを友達に伝えたりしている。 「この線から始めよう。」や「1回だとすぐ終わってしまうから2回やってもいいようにしましょう。」など、遊び方やルールを提案したり、友達とそれらを話し合っ作っていったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人で遊んでいる子どもや遊び方に違いがある子どもには、教師が遊びの場の設定をして、一緒に遊ぶことの楽しさとそれに必要な遊び方やルール作りがあることを伝えて参考にさせたり、すでに遊び方やルールを決めて遊んでいる友達の姿を見せて「〇〇さんたちの遊びにはどんなルールがあるといいかな。」や「どんな遊び方をしたいかな。」などと声をかけて考えさせたりする。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
	主 体	みんなで楽しく遊びたいという思いや願いをもって、粘り強く遊びを創り出そうとしている。	「この遊びに点数をつけて、もっとゲームみたいにしてみよう。」や「どうして〇〇くんはそんなによく動くんだろう。ぼくのところが違うけど教えて。」、「私たちこんな風にして遊んでいるんだ、〇〇さん一緒に遊ぼうよ。」など、自分から友達に発信したり、それらに応えたりしてお互いに働きかけ合って遊びを広げようとしている。	●うまくいかなかったり、一人で遊んでいる子どもなどに声をかけて、うまくいっている子どもの説明を教師も一緒に聞いて「そうか、こんな工夫があるんだね。一緒にやってみよう。」と意欲をもたせたり、友達がしていることをみんなで見せ合う時間を設定して参考にさせたりする。
みんなで楽しくあそぼう （4時間） 自分や友達を作ったおもちゃで遊び、身近にある物を使っておもちゃを作る面白さを実感するとともに、みんなで遊びを楽しんだり、面白さに気付いたりすることができるようにする。	知 ・ 技	みんなで遊ぶことについて、おもちゃの動きの面白さや不思議さ、それを作ること自体の面白さ、みんなで遊ぶことの楽しさ、面白さに気付いている。	「こんなに動くおもちゃもあるんだ！ものすごく楽しいね。」や「このおもちゃ、こうするとどんどん速くなっていくんだよ。」、「これはね、実はここに磁石がかかっているんだ。」など、友達の動くおもちゃの特徴に気付いたり、自分のおもちゃの特徴を伝えたりして、おもちゃを作って、みんなで遊ぶことは楽しいと気付いている。	●おもちゃの良さを教師や友達で「〇〇さんのここが△△ですてきだね。」などと褒め合ったり、認め合ったりし、おもちゃの動きの面白さや不思議さ、みんなで遊ぶことの楽しさや面白さに気付くような場を設定したり、声をかけたりする。
	思 ・ 判 ・ 表	みんなで遊ぶことについて、楽しく遊ぶための遊び方やルールをより面白くしようと考えながら、遊びを工夫している。	友達のおもちゃの面白さに気付いて作ってみようとしたり、自分のおもちゃの面白いところを友達に説明したり、更に面白くしようと遊び方を提案したり、自分のおもちゃの面白さを伝えたりして、遊びの場を楽しくしようと考えている。	●具体的に「こうしたい」と考えられるように、友達や自分の作ったおもちゃの面白いところやどんな遊び方やルールで遊ぶと楽しかったのかをたずね、今までのおもちゃや遊びを振り返って参考にさせる。
	主 体	友達と関わったり、話し合ったりしながら、みんなで楽しく遊ぶうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなで考えたら、面白いことができるなあ。」と思い、たくさんの遊びに関わっていったり、自分の遊びをたくさんの人に説明したり、友達の遊びの面白さを積極的に聞いたりして、みんなで遊ぶことを楽しんでいる。 ・「みんなで遊んだらこんなに楽しいんだがら、もっといろんな人と一緒に遊びたいな。」などと願い、更により多くの人と関わりをもとうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「どんなところが面白いのかな。」、「このルールがもしなかったらどうかな。」など、自分や友達、みんなで考えた遊び方やルールやおもちゃについてたずね、みんなでこの楽しい場を作っていることに気付くように声をかける。 ●「〇〇くんのおもちゃのここが面白いね。」や「この遊び方やルールがあると楽しいね。」と教師が声をかけ、みんなで楽しく遊んでいることを認める。

単元名

もっと知りたいたんけんたい

教科書 上巻 p.72～85

単元の配当時間 14 時間／活動時期 10～11 月

単元の目標

町で生活したり働いたりしている人々との関わりを深める活動を通して、町の良さや町の人々の温かさに気づき、町の人々への親しみや愛着をもつとともに、相手に合わせて適切に接したり、安全に生活したりできるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて変更して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
町にはどんな人がいるのかな？（1時間） 前回の町探検を振り返り、これまでに関わった場所や人をもとに、もっと調べたいことを決め、町探検への意欲をもつことができるようにする。	知・技	自分が住んでいる町には、様々な生活したり働いたりしている人がいることに気付いている。	「〇〇ちゃんの話していた人に会ってみたいと思いました。」、「お店のことは知っていたけど、どんな人が働いているのかは知らないので、調べてみたいです。」など、友達の話聞いて町探検の意欲に繋げている。	●友達の発表を聞いて、町にはいろいろな人がいることに気付かせる。
	思・判・表	自分が住んでいる町にはどんな人がいるのかを思い起こし、友達と交流している。	「横断歩道を渡る時に、いつも旗を持って渡らせてくれる人がいるけど、あの人はどんな人なんだろう。」というように、今までに町の中で出会ってきた人について考えている。	●前回の町探検の様子の写真を用意し、写真を見せて、町にはどんな人がいたか思い出させる。
	主体	自分が関わったことがある人や知っている人について話し合い、町探検を楽しみにしている。	「春に探検に行った時に会った〇〇さんにもう一度会いたいです。」など、前回の町探検の経験と結び付けながら話している。	●「学校に来る途中で誰に会う？」、「どんなお店に行ったことがある？」などと問いかける。
町たんけんの計画を立てよう（2時間） 前回の町探検の経験を生かし、必要な物や注意することなど、グループごとに町探検の計画を立てることができるようにする。	知・技	町探検に必要な物や約束（ルールやマナー、言葉遣い、安全面）に気付いている。	挨拶、言葉遣い、交通安全など、町探検に行く際の様々なマナーやルールを守ることの大切さに気付いている。	●前回の町探検で困ったことなどを知らせ、今回の探検で気を付けることに気付かせる。
	思・判・表	前回の町探検の経験を生かし、会いたい人や行きたい場所、知りたいことや調べたいことを思い描きながら、計画を立てる。	前回の町探検の経験を生かして、必要な物や町でのふさわしい行動を予想しながら、活動の計画を立てたり、約束を考えたりしている。	●教科書下巻p.76～77や前回の計画カードを参考に町探検の計画を立てるように促す。
	主体	グループの友達の意見を自分の意見と調整しながら、楽しく安全で礼儀正しい町探検が行えるように進んで準備しようとしている。	前回の探検の経験を生かし、自分たちで計画・準備を進めたり、会いたい人に事前交渉をしたりしている。	●「どんなことを調べたいのかな。」、「どんなふうに聞くのかな。」、「グループの中に同じ質問をしたい人はいるかな。」などと質問し、準備物や言葉遣い、インタビューの順番などを確認する。

単元の評価規準

●知識・技能

町で働いている人や住んでいる人の町への思いや、自分たちの生活との関わりに気付くとともに、自分の町の良さに気付いている。

●思考・判断・表現

町の様々な場所や人と適切に関わることや、安全に生活することについて考えたり、町探検で気付いたことや教えてもらったこと、体験したことについて、自分らしい方法で表現したりしている。

●主体的に学習に取り組む態度

自分が生活している町に関心を持ち、町の人々や様々な場所に親しみをもって関わったり、友達と協力して町の人との交流を深めたりしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
町の人にインタビューしよう（4時間） グループの探検計画に沿って町に出かけ、町で働く人や住んでいる人と話すことで、町の人々の思いや工夫に気付くことができるようにする。	知・技	町で生活したり働いたりしている人の様々な工夫や、それらが自分たちの生活を支えていることに気付いている。	「〇〇さんはこんな思いだからこんな工夫をしている。」というように、働いている人の工夫とその人の思いの関係に気付いている。	●自分がかいたカードや同じグループの子がかいたカードを教師と一緒に確認し、気付いたことはないか聞き取る。
	思・判・表	相手や場、状況に応じた適切な行動を意識しながら、インタビューしている。	相手の様子を見て、更に知りたいと思ったことについても臨機応変にインタビューしている。	●インタビューの時間を作ってもらっているという感謝の気持ちや他のお客さんへの配慮をもう一度確認する。
	主体	マナーやルールを守って、進んでインタビューしようとしている。	インタビュー活動を楽しみ、更にその人のことを知りたい、その人に関わりたいと思っている。	●質問する内容を事前に考えてからインタビューを行うようにさせる。また、話すのが苦手な子どもには、インタビューの仕方を練習してから行くようにさせる。
町の人となかよくなるよう（4時間） 町の人と一緒に何かをしたり、作業の一部を体験したりして繰り返し交流を深めることで、それらの人々が自分たちの生活と関わっていることが分かるようにする。	知・技	町で生活したり働いたりしている人の町への思いや、それらの人々が自分たちの生活を支えたり楽しくしたりしていることに気付いている。	町の人々の町に寄せる思いを聞き、町の人々の良さに気付いたり、憧れや尊敬の気持ちをもったりしている。	●友達のかいたカードや話し合いを参考にしながら、町の人々の思いを感じられるように支援する。
	思・判・表	一緒にしてみたいこと、更に聞いてみたいことを決め、相手のことを考え、場に合った行動を意識しながら、町の人と関わっている。	たくさん話したりふれあったりするなどして、親しみを表しながら、礼儀正しく町の人と関わっている。	●コミュニケーションが苦手な子どもには、引率者が仲立ちになって町の人と繋ぐようにする。
	主体	探検で関わった町の人と親しくなるために、繰り返し関わろうとしている。	「〇〇さんともっと仲良くなりたい。」という思いを発言しながら、町の人と一緒にしたいことやもっと聞いてみたいことを友達と話し合っている。	●「もっと聞きに行こうよ。」「一緒にさせてもらおうよ。」などと声をかけ、活動に誘ってみる。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
町のすてきを話そう（3時間） 町探検で関わった人のことについて友達と振り返り、町にはすてきな人がたくさんいることが分かり、自分の住む町にいつもの愛着や良さを感じることができるようになる。	知・技	自分たちの町には、すてきな人や場所がたくさんあることに気づき、町への親しみや愛着が増えていることに気付いている。	学校の行き帰りや町探検での人々との関わりを通して、様々な観点から町の良さに具体的に気付いている。	●友達の発表を聞いたり、教師と一緒にカードを見返したりしながら、「いいな」と思うことを引き出す。
	思・判・表	町で働いている人や住んでいる人と自分たちの生活との関わりを振り返りながら、教師や友達と話している。	「〇〇さんのおかげで安全に登下校ができていたんだね。」など、町の人と自分との関わりについて具体的に話している。	●「町の人に喜んでもらうために頑張っているんだね。」など、子どもの発言した言葉を繰り返して、意識付けを図る。
	主体	進んで分かったことを発表したり、友達の発表を聞いたりしようとしている。	自分だけが知っている町の「すてき」を友達に分かりやすく伝えている。また、友達の発表を聞いて自分の知らなかった「すてき」を知ろうとしている。	●写真や絵地図を使って、子どもたちの興味が持続できるようにする。

単元名

町の すてき ったえたい

教科書 下巻 p.86 ~97

単元の配当時間 12 時間／活動時期 11 ~12 月

単元の目標

これまでの町探検で気付いたことや季節を通しての町や人々の様子、多くの人との関わりや交流について、まとめたり、身近な人たちと伝え合ったりする活動を通して、自分たちの町の良さに気付いたり、町やそこに住む人々への愛着をいっそう深めることができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて変更して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準 (B基準：おおむね満足できる)		A基準 (十分満足できると見取る児童の具体例)	B基準に達しない児童への支援
町の すてきを あつめよう (3 時間) これまでの町探検を振り返り、自分たちの町にはすてきな人や場所がたくさんあることに気付くことができるようにする。	知・技	町探検を振り返り、町の人の願い・おすすめ・工夫や、そこに住む人々と関わることの良さや楽しさに気付いている。	友達と「あのお店の〇〇さんは『この町を好きになってほしい』って言っていたよね。」などと相談したり、これまでの活動を振り返ったりしながら、自分たちの町の良さや、そこに住む人々と関わることの楽しさに様々な観点から気付いている。	●町の人の願い・おすすめ・工夫について小グループで話し合う機会を設けたり、カードなどを教師と一緒に見ながら、適切な声かけや聞き取りを行ったりして、気付きを促す。
	思・判・表	町探検で見つかったり聞いたり感じたりしたことを関連付けて、町の人の願い・おすすめ・工夫について考えている。	町探検を通して見つかったり感じたりした自分のお気に入りの「すてき」について進んで考え、その内容や理由について説明している。	●隣同士や小グループでの話し合いの機会を設け、発言ができるように支援する。
	主体	町のすてきを伝えたいという思いをもって、町探検の中で気付いたことや多くの人と交流をもてたことを、身近な人たちに伝えようとしている。	町探検の中で気付いたこと、調べたこと、多くの人と交流をもてたことを主体的に集め、たくさんの人たちに伝えようとしている。	●写真を用意しておき、印象に残ったこと、楽しかったことなどを想起させ、意欲付けを図る。

単元の評価規準

●知識・技能

季節を通しての町の様子が分かり、町のいろいろな「すてき」に気付くとともに、町への親しみや愛着が増したり、人々と適切に交流することができるようになったりした自分自身の成長に気付いている。

●思考・判断・表現

町探検で気付いた町の良さや人々と関わることの楽しさについて考え、自分なりの方法で表現したり、発表したりしている。

●主体的に学習に取り組む態度

季節を通しての町の様子に対する関心や、町の人々や様々な場所に対する親しみをもって、これまでの町探検のまとめをし、友達や町の人々と伝え合おうとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
すてきをつたえるじゅんぴをしよう（5時間） 町の人々の願い・おすすめ・工夫などの自分たちの住む町の良さを、伝えたい人や伝えたい内容に合わせて、工夫してまとめることができるようにする。	知・技	相手や目的に応じて、様々な伝え方があることに気付いている。	様々な伝え方の中から、自分が伝えたいことがよりよく伝わる表現方法を選ぶことの大切さに気付いている。	●新聞、クイズ、劇化など、これまでに経験した伝え方を振り返り、適した表現方法を選ばせる。
	思・判・表	伝えたいことが相手に伝わるかどうかを予想しながら、伝える内容や伝える方法を決めている。	・相手のことを思い浮かべたり、相手の立場を気にかけてりするとともに、伝えたいことが相手に伝わるかどうかを判断して伝える内容や伝える方法を決めている。 ・友達と相談したり、他のグループからアドバイスをもらったりすることで、自分たちの発表の良い点やもっと工夫できる点を考えている。	●グループ同士でアドバイスをし合わせ、伝える内容や方法を考えるヒントにさせる。
	主体	町のすてきを伝えたいという思いをもって、町探検で見つけたことや分かったことを自分なりに表現したり、まとめたりしようとしている。	町探検で見つけたことや気付いたこと、町の良さなどを友達と協力しながら進んでまとめようとしている。	●町探検の様子を写真やビデオで振り返りながら、活動への意欲を高めていく。
町のすてきはっぴょう会をしよう（3時間） これまでの探検のまとめとして、個人やグループで展示や発表の方法を工夫し、招待した人たちとともに町の良さにあらためて気付くことができるようにする。	知・技	自分の心に残ったことが身近な人々に伝わることの楽しさや、身近な人々が考えている町の良さが分かることの楽しさに気付いている。	発表後に身近な人々と感想や気付いたことなどを伝え合うことを通して更に分かったことがあるなど、交流することの良さや楽しさに気付いている。	●発表会や交流会を通して、町の良さや人々と関わることの楽しさに気付くことができるよう、ねらいや目的をしっかりともった活動を心がける。
	思・判・表	相手意識や目的意識をもって、分かりやすい伝え方を工夫して、伝え合っている。	一方的に伝えるだけでなく、相手の反応を見ながら臨機応変に伝え方を変えている。	●思い思いの表現で良いことを伝える。また、隣同士や小グループでの発表の機会を設け、考えや感想を発表することに自信がもてるように支援する。
	主体	町のすてきを多くの人に広めたいという思いをもって、展示や発表を工夫し、みんなで発表会や交流会を楽しもうとしている。	・町探検について友達と相談したり、展示や発表を工夫したりして、発表会や交流会を盛り上げようとしている。 ・「保育園の子たちにも分かりやすいように、看板にふりがなをふろうよ。」などと声をかけながら意欲的に取り組んでいる。	●発表会などでしたいことや、グループでの計画を紹介し合いながら、活動への意欲を高めていく。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<p>町たんけんをふりかえろう （1時間）</p> <p>これまでの町探検を振り返り、自分たちの町への愛着が深まっていることに気付くとともに、身近な人と関わることの楽しさを感じたり、適切に関わることができるようになったりした自分の成長に気付くことができるようにする。</p>	知・技	春と秋の町探検の活動を通して、町の人や物との関わりが深まり、自分自身も成長したことに気付いている。	これまでの活動を振り返ったり、記録したカードなどを整理したりしながら、町との関わりが深まったこと、知り合いが増えたことなどが分かり、自分自身も成長したことに気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> ●「町探検に行く前と今とで、変わったことはある？」と問いかけ、丁寧に聞き取りをしていく。 ●これまでの子どもの姿を見取っておき、「〇〇さんは、こんなことができるようになったね。」と成長を伝える。
	思・判・表	町のこと、町の人のこと、自分のことに分類しながら、これまでの町探検を振り返っている。	自分たちが住む町への思いや願い、町探検で気付いたことなどを友達と話し合う中で、町や自分、友達の良さについて具体的に考え、表現している。	<ul style="list-style-type: none"> ●板書を工夫することで、子どもたちが様々な角度から町探検を振り返って考えられるようにする。
	主 体	これからも町の人々や場所と進んで関わり、自分の生活を楽しくしようとしている。	作った作品や手紙などを持って行って感謝の気持ちを伝えようとしたり、発表会に招待した人以外にも町のすてきを伝えようとしたりして、積極的に身近な人々に関わろうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ●町の人や場所と積極的に関わろうとしている友達のことを紹介する。

単元名

これまでのわたし これからのわたし

教科書 上巻 p.98～107

単元の配当時間 21 時間／活動時期 1～3月

単元の目標

自分自身の成長を振り返る活動を通して、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて変更して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
	知・技	自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かっている。	「2年生になって、夕ご飯のお皿を並べるのがぼくの仕事になったんだよ。」「アサガオを育てる時はできなかったけれど、ミニトマトは毎日お世話できたよ。だから、続ける力がついたよ。」など、自分の役割や内面的成長などについて考えたり、発言したりしている。	●入学してから多くの出来事に取り組んできたことなどの具体的な場面を取り上げ、その時の気持ちを考えさせたり、以前できなかったことでできるようになったことがないかを問いかけたりする。
大きくなった自分をふりかえろう（2時間） 入学してからの2年間の学習や生活を振り返り、自分自身の成長に関心をもつとともに、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどに気付くことができるようにする。	思・判・表	過去の自分と現在の自分を比べながら、自分の成長や良さについて考えている。	「私が幼稚園の時に着ていた洋服をお母さんが妹に着せていたよ。小さい頃と今使っているものを比べたら大きくなったことが分かったよ。」「家でのお手伝いが増えたことも大きくなったということかな。」など、成長を捉える手がかりについて、自分から考えたり、発言したりしている。	●入学式の時の写真を見せたり、1年生の時にかいたカードや成果物を見せたりして、今の自分の姿を比べるように声をかける。
	主体	自分の成長について関心を持ち、調べてみたいという思いをもって、自分の成長を振り返ろうとしている。	「おばあちゃんが幼稚園に迎えに来てくれていたから、おばあちゃんに小さい頃の様子を聞いてみたいな。」「ぼくは嫌なことがあるとすぐ泣いていたんだって。2歳の妹が泣くとぼくは困っちゃう。お父さんも同じような気持ちだったのかな。」など、誰に聞いたらいいか予想したり、身近な人の視点から自分の成長を捉えたりしようとしている。	●幼稚園・保育所のことや身近な人々とのエピソードを想起させ、その中で自分は誰と関わりが深かったのか振り返らせる。また、今、頑張っていることや好きなことなどに取り組む際に、関わりが深い人は誰か考えさせる。

単元の評価規準

●知識・技能

自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、内面的な成長や自分自身の良さが分かり、これからも成長できることに気付いている。

●思考・判断・表現

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、過去の自分自身や出来事を、現在の自分と比較して考えるとともに、自分の成長を支えてくれた人々との関わりについて考えている。

●主体的に学習に取り組む態度

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
自分についてしらべよう（4時間） 自分が小さかった頃の事を家の人やお世話になった人に聞いたり、友達と良いところを認め合ったりして、自分の良さを自覚し、多くの人の支えにより自分が成長したことに気付くことができるようにする。	知・技	・自分の成長を支えてくれた人々の存在や自分との関わりに気付いている。 ・優しい気持ち、他者への思いやり、我慢する心など、自分の内面的な成長に気付いている。	「苦手な食べ物も友達と一緒に給食なら食べられるようになった。」「△△さんと毎日鉄棒をしていたら得意になった。」など、できるようになったことや自信をもてることなどを自覚するとともに、身近な人々との関わりや支えにより成長したり、様々なことに取り組みたりしたことに気付いている。	●保護者と連携し、できるようになったこと、友達に自慢できること、好きなことなどについて一緒に考えておいてもらう。 ●幼稚園・保育所のことを思い起こさせ、以前できなかったができるようになったこと、今友達に自慢したいことなどについて、教師と一緒に考える。
	思・判・表	・自分の成長について調べたり、考えたりしたことを話したり、表したりしている。 ・友達の良さを見つけて、それらについて友達に伝えている。	「5月頃は、一輪車に乗れませんでした。でも、〇〇君が教えてくれたり、一緒に練習してくれたから、こんなに乗れるようになりました。」など、できなかった時と比較したり、できるようになるためには友達などの励ましや支えがあったことに気付いている内容の発表をしている。	●できるようになったことを教師と一緒に喜び、安心して友達の前で発表できるよう、発表の練習を支援する。友達からどんなことを褒めてもらったらうれしいか、考えながらメッセージを書かせる。
	主体	自分の成長や自分の良さをもっと知りたいという思いをもち、家の人やお世話になった人と関わりながら調べようとしている。	養護教諭の先生に相談し、自分の成長の記録（身長・体重などの記録）を見ながら「私、1年生に入学した時と比べて、私の手の中指ぐらい伸びたんだって。保健の先生が教えてくれたよ。」など、1年生の時の身長と今の身長を比べながら考えている。	●自分で調べたくなるようなきっかけを作るために、小さかった頃を想起できるような資料（入学式の写真、入学当初の表現物や保育所・幼稚園の頃の写真など）、頑張ったことや好きなことなどが伝わる資料などを見せる。
自分のせい長をまとめよう（8時間） 自分の成長を表すのに適切な出来事を選び、その内容や伝えたい相手に合わせた表現方法でまとめることができるようにする。	知・技	・相手や目的に応じて、様々な伝え方があることに気付いている。 ・自分の成長や自分自身の良さ、可能性に気付いている。	「ぼくがいろいろなことが自分でできるようになると、おじいちゃんやおばあちゃんがすごく喜んでくれることに気が付きました。」など、自分の頑張りが家族や身近な人々を喜ばせていることに気付いている。	●「自分のことが自分でできるようになる」、「安心して自分らしく過ごせている」ということがとても大切であり、家族や身近な人々の喜びでもあることに気付かせる。
	思・判・表	自分の成長の中から伝えたい内容を選んだり、伝えたい相手を決めたりして、その内容や相手に合わせて作品にまとめている。	「自分ものがたり」を「巻物にしようかな。カルタにしようかな。作品集として仕上げても楽しいな。」など、自分なりの方法を工夫している。また、作りながら、できるようになったことに喜びを感じ、1年前の自分に手紙を書いたり、友達に自慢したりしている。	●保護者と連携し、自分はどのような人と関わり、どのように育ってきたか気付くことができるように、これまでのエピソードなどの話を家族と一緒にしてもらう。 ●「自分ものがたり」は世界に1つしかない宝物であることを伝える。
	主体	自分の成長を伝えたいという思いをもち、表し方や伝え方を工夫したり、足りないところを調べ直したりしようとしている。	「〇〇ちゃんは、仲間はずれにされそうになった時、『一緒に遊ぼう。』と声をかけてくれたんだよ。私、絶対忘れないよ。」と、友達の良さについて本人に伝えたり、進んで工夫しながら「自分ものがたり」作りに取り組んでいる。	●参考作品を見せながら、自分が一番心に残っている成長カードを、成長してきた順に並べることからスタートすると、楽しく作ることができることを伝える。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
ありがとうをとどけよう（7時間） 自分の成長には、多くの人々の支えがあったことに気づき、それらの人々に感謝の気持ちを伝えることができるようにする。	知・技	自分が大きくなったり、自分でできるようになったりするなどの成長には、多くの人々の支えがあり、大切に育てられたことに気付いている。	「ぼくが今まで元気に安心して学校に通うことができたのは、毎朝交通指導員のおじさんが見守ってくれたからだね。」など、家族以外の人にも目を向け、感謝の手紙を書いたり、作品を作ったりできている。また、感謝の気持ち「ありがとう」を伝えることの心地良さを感じている。	●自分が今まで育ってきたのには多くの人々の支えがあったことに気付くことができるよう、写真を見て思い出話しながら、その時その時の自分の気持ちや、関わってきた人の気持ちを考えさせる。
	思・判・表	これまでの振り返りをもとに、自分なりに方法を工夫しながら、感謝の気持ちを伝えている。	家族や地域の人、友達など、自分の成長を支えてくれた人が誰なのか分かり、感謝の気持ちを伝えるために、進んで自分なりの方法を考え、心を込めて手紙や作品などの表現物を作成し、伝えることができている。	●感謝する気持ちを伝えることが大切であることを知らせ、自分なりの方法を考えさせ、無理に手紙ではなく、「ありがとうカード」などに短く書くことでも気持ちを伝えられることを教える。
	主 体	自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからも意欲的に生活しようとしている。	自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、「おじいちゃんは遠くに住んでいてもいつもぼくのことを心配してくれているんだね。今度からもっとたくさん電話するね。」など、一緒に住んでいない祖父母に対しても、感謝の気持ちを伝えようとしている。	●自分から進んで手紙を書いたり、作品を作ったりできない子どもには、家族や地域の人などがどのような思いで育ててきたのか分かるように、子どもへの手紙を書いてもらったり、メッセージを伝えてもらったりするよう、事前に依頼しておく。